

幼児と園芸

阿久沢榮太郎

夏は、春まきの草花の花をたのしんだり、手入れをしたりする季節です。

しかし、幼稚園にふさわしいしごとがたくさんあります。

今月は、

1、手入れ

2、種まき

3、池づくり

の三つにわけてお話ししてみましょう。

1、手入れについて

(1) 夏の水やり

つゆのあけるころから、にわの花だんだんどずいぶんかわきますから、朝・ばん水をやるが必要になってきます。

日中は葉がしおれる程度までかわいてもかまいませんが、夕方には、わずかにうるおす程度に水をやって元気を回復させます。そして、朝はたっぷりとやるようにするのがよいのです。

日中に水をやると、土がむれて、根をく

さらせるおそれがありますので、なるべくさけた方がよいでしょう。

幼児が幼稚園にやってきてあまりあつくならないうちに草花などに水をやるのを日課のひとつにして計画しておくのもよいと思います。

夕方は、やはり、先生のしごとになってしまいます。

(2) 夏の日よけ

つゆがあけると急にあつくなり、三〇度をこえる日がつづくようになります。

シクラメンや、ベゴニア、プリムラなどの鉢植えの草花やゴムノキ、モンステラ、ホクシヤなど熱帯性の植物でも葉から蒸発する水分で水分の調節をはかりますが、水分が不足しがちになり日やけして葉がいたむものです。

水をやっても、根がむれてくさることがあるので、つよい日をささぎよう、ちょっとした工夫をしてやる必要があります。

ヨシズを買いもつめて、たてかけたり、

また風通しのよいところをつくってやりするののも一つの方法です。

これは、やはり先生のしごとで、幼児にもわかる程度の説明をしてやるのもよいでしょう。

(3) たねとり

たねとりは、ふつう、あまりやらないようですが、やはり園芸のたのしみの一つはたねとりにあるのです。

たねとりのしかたにもいろいろあり、種類によって、それぞれ適した方法があるわけです。

① つみとるたね

熟したたねがとびちったり、ぼろぼろとこぼれてしまうものは、毎日、または、一日おき位につみとるのがよいのです。

ほうせんかなどはこれです。

幼児でも、つみとり方をお話してやらせてみるとよいと思います。

こぼれおちるたねには、マツバボタン、きんぎょそう、などがあります。マツバボ

タンは、さやのぼうしがとれないうちにとるとよいでしょう。

② かりとるたね

ひやくにちそうなどのたねは、かりとって、かげぼしにしてかわかしてから、適当なものの上でたいてたねとりをします。

ひやくにちそうなどは、たねが熟したのをこのままにしておいて雨にあわせると、芽を出してしまうものです。

(4) たねのしまい方

草花のたねはかげぼしにしてかわかしてからしまっておくのがふつうです。

しまっておくうちに温気にあうおそれがあれば、小さいふくろにつめて、茶つたなどのようなかんに入れ、シリカゲールのよくな吸湿剤を薬局より購入してきて、ふくろに入れていっしょに入れておけばよいでしょう。

アースター・パンジーなどのたねは、三〇度以上に温度があがるようなところにおくと発芽しなくなってしまうおそれがあり

ます。

2、たなばたのころ

まくたねについて

七月ごろまくたねには、ハボタンが適当です。

冬の花だん用として適当な場所をきめて、ハボタンのたねをまいておきましょう。

たねまきの時期は、たなばたのころから七月いっぱいが適期です。

ハボタンには、マルバハボタン、チリメンハボタンの二つの種類があります。それぞれ、紅と白とがあります。

冬はどうしても殺風景になりがちですから、にぎやかな紅の方を多くまき、白の方をすこしまいておくとよいでしょう。

マルバハボタンは東京やその周辺で多くつくられています。丈の高いものをつくりたいときは、四月ごろたねまきをしますが

花だん用としては七月が適当でしょう。チリメンハボタンは、ナゴヤハボタンと

もいい、葉のへりがちぢんでいます。

① まき方

花だんの一部や木箱にやわらかい土をいれて、ばらばらとまき、たねがかくられる程度に、わら灰をかけておくようにします。

水をやったねがしめつていけば、三〜四月で子葉がひらきます。

② うえかえ

本葉が一〜二枚でてきたら、根をいためないように注意して、ほりとり植えかえやりませう。

夕方、日がかたむいてからうえかえるとよいでしょう。

ハボタンは何回もうえかえをするほど葉がしまってくるので見栄えがします。

早くうえ、そのままにしておき、どんどん育て、たおれやすくなります。

③ アオムシたいじ

七月に葉ののびはじめころ、モンシロチョウがとんできてさかんに卵をうみつけ

ます。

そこで、時々、D・D・T、または、B・H・Cをまいておくようにすることをわすれないでください。

④ 夜盗虫たいじ

秋になるとよく夜盗虫がでてきて、さかんに葉をたべることがあります。こんなことに気がついた時は朝はやくおきて見まわってもらい、とつてもらうようにしてください。

⑤ 下葉とり

葉がつきすぎて大きくなりすぎたときは下葉を適当にもぎとつて育ちを調節してやるようにしましょう。

⑥ 肥料

ちっせ肥料をすこしずつやりましょう。しかし、時には、わら灰や木灰をつくつてやるようにするとガッチリと育ちます。

このように手入れをしていくと、冬の殺風景な庭に適当な色どりをそえる見事なハボタンを育てることができるので、今年

七月に計画をたてて、ぜひ試みてください。

3、池つくり

池つくりなどというと、はじめからともだめだと思ふかたが多いと思います。

ここでは御婦人でもできるかんたんな池つくりを考えてみたいと思います。

池といっても、ビニール布をつかった、夏の間だけのしむ池つくりなのです。

池つくりには、いろいろな方法があります。

リング箱のような箱に外がわからもつと丈夫にきぎの打ちなおしをして、池つくりの箱として利用し、この中にビニール布を敷いて水を張って、池にする方法もあります。この場合、予め、リング箱の中に適当な分量の土をいれ特に四すみななどにビニールがつよくあたらぬようにしたり、池の底のようすを土のいれ方にかえるように工夫してつくるのも興味のあることです。はじめに最も一般的な庭さきにつくる場合に

ついで考えてみましょう。

まず庭の適当な場所を見つけ、くわやシヤベルで適当な深さ、適当な大きさのあなをほります。

(これはビニール布の大きさによって、池の大きさはきまっています。二枚つぎ合わせても水がもつてしまうことが多いので一枚のものを使う方がよい)

そして、適当な形をつくってから、ビニール布を敷きこみます。

ビニール布のしわをなるべくのばしておきます。

池のふちにはレンガのようなものをならべたり、四角の場合は適当なふとぎの木柱などをならべたりしてかっこうをつけるとよいと思います。

そして、ふちどりを適当に工夫するとよいでしょう。

水をいれる前に適当に土をいれたり水草を植えたりして準備がととのったら水を少しずつに入れるようにします。

そして二三日おき、水がすんでから、さかなや、水中生活をする小さい生きものをに入れてやるとよいでしょう。

幼稚園のこどもを楽しませるには、更にふんすいの工夫をしたりするとよいと思います。

次に、小容器を校庭においたり、うめこんだりして、その中にビニール布をしいて前述と同様にしてつくるとよいでしょう。

いろいろな水草を植えておくと水気のすくない校庭がいかにもすずしそうになり、とても夏をむかえた感じが出ます。

池の中に植えるものとしては、いろいろあります。

小さい池の場合には適当な深さにして、

スイレン……………水の深さ五〇〜六〇

センチくらい

ヒメスイレン……………水深五〜一〇センチ

くらい

熱帯スイレン……………四〇〜五〇センチく

らい

ホテイアオイ……………適当なふかき、などが割り合いと一船的なものです。

4、鉢植えのせわ

夏のころよく花屋の店さきに出ていて目につくのはアサガオなどの鉢植えです。

幼稚園では、春まきしておいても、水をやったり、せわをしたりしないと大輪の花をさかせることはむずかしいので適当な鉢数だけ購入して水をやりながら幼児とたのしむのも一つの方法でしょう。

絵にかく材料としては、たいへんつごうのよい花です。

しかし日のあたるところへ出しておくと園児が登校するところにはもうすでに、しばらくでしまうので、日かげのすこし暗いところにおくようにすればある程度、花をもたせることもできます。

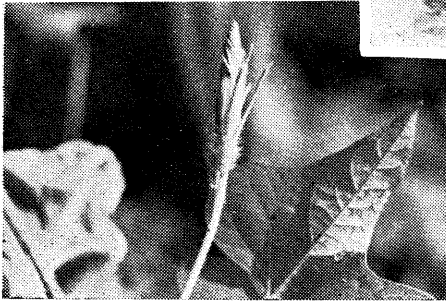
鉢植えのものでないと、このようなことがむずかしいので幼稚園では、アサガオは、ぜひ鉢植えのものがほしいと思います。



鉢にたねをまいてアサガオの本葉
が3~4枚できたとこ

らせん形にした針金を支柱にし
て仕立てたアサガオの鉢づくり →

アサガオのつぼみ



みごとにさいたアサガオの花



ア サ ガ オ

の

鉢づくり



らせん形にした支柱の針金を
つたわってのびるアサガオ

